

血友病患者の家庭注射療法

九州大学小児科 宮崎 澄雄

病院から遠隔の地に住み関節出血が頻発する血友病患者6例に家庭注射療法を実施しているので、その後の成績を報告する。

対象者は別表に示すように現在の年齢が7才から18才までの血友病Aの患者である。いずれも当院での治療期間が2年以上になるものである。自宅注射に切替えてからの観察期間は6カ月から4年であり、手技は両親のいずれかを主とし、1例のみは17才から本人が行なっている。

家庭注射療法を実施してから6例中5例で休学日数が減少し4例に関節障害の改善をみている。しかし血液製剤の使用量は6例中5例で増加した。血液製剤の副作用に対する不安を2例が訴え、うち1例は1回のみじんま疹を生じた。抗ヒスタミン剤の前投与を3例に行なっている。肝機能の増悪した例はない。

家庭注射療法により患者全員の情緒的安定が得られ、6例中4例は学業成績も向上したという。経済的負担の軽減も半数が認めている。

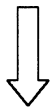
血友病患者の家庭注射療法

患児	年齢(才)	期間	手技者	総回数	目的	休学日数(月平均)	
						前	後
SA	10	4年	母	40	早期止血	5	2
TS	18	3年8カ月	父→本人	29	・	6	3
AY	13	3年10カ月	父	19	・	2	1
TT	15	3年5カ月	母	25	・	1	1
NK	9	2年6カ月	母	15	・	2	1
SK	7	6カ月	母	5	・	3	1

(副作用：TTにおいてじんま疹1回)



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



病院から遠隔の地に住み関節出血が頻発する血友病患者 6 例に家庭注射療法を実施している
ので、その後の成績を報告する。